



令和3年7月19日

中部地方整備局

清水港湾事務所

「清水港湾事務所 100年のあゆみ」パネル展示を行います！

～ 本年、清水港湾事務所は開設から100周年を迎えました ～

清水港湾事務所は、1921年(大正10年)に、内務省横浜土木出張所清水港修築事務所として開設され、本年(2021年(令和3年))、100周年を迎えました。これまでお支えいただいた地域の皆様に心より感謝を申し上げます。

この節目にあたり、これまで当事務所が手がけてきた主要プロジェクトや、現在実施中のプロジェクトのパネル展示を行います。

各プロジェクトの時代背景や施工技術も含め、清水港湾事務所100年のあゆみを、ぜひご覧いただければ幸いです。

記

1. パネル展示の概要

展示場所① 静岡市東部勤労者福祉センター(清水テルサ) 1階ギャラリー

日時: 令和3年7月21日(水)～令和3年8月31日(火)

(8時30分～22時00分)

※主に清水港の整備に関するパネルを展示予定

住所: 静岡市清水区島崎町223

その他: 公共交通機関でお越しください。最寄り駅: JR清水駅

車でお越しの際は、近隣の有料駐車場をご利用ください。

展示場所② 御前崎市役所本庁 1階ロビー

日時: 令和3年7月21日(水)～令和3年8月31日(火)

(8時15分～17時00分 土日祝日除く)

※主に御前崎港の整備に関するパネルを展示予定

住所: 御前崎市池新田5585番地

その他: 車での来訪可。駐車場有

展示場所③ 牧之原市役所相良庁舎 1階ロビー

日時: 令和3年7月21日(水)～令和3年8月31日(火)

(8時15分～17時00分 土日祝日除く)

※主に御前崎港の整備に関するパネルを展示予定

住所: 牧之原市相良275番地

その他: 車での来訪可。駐車場有

展示場所④ 中部地方整備局清水港湾事務所 1階

日時: 当面の間(8時30分～17時15分 土日祝日除く)

住所: 静岡市清水区日の出町7-2

その他: 公共交通機関でお越しください。最寄りバス停: 波止場フェルケール博物館

車でお越しの際は、近隣の有料駐車場をご利用ください。

なお、当事務所が協力する港湾関係の各種イベントにおいても展示を予定しています。



2. 注意事項

- ・マスクを着用の上、御来場ください。
- ・入口に設置された消毒液で手指の消毒をお願いします。
- ・風邪症状があるなど体調が悪い方、37度以上の発熱がある方は、来場を御遠慮ください。
- ・会場内では、大声での発声は御遠慮ください。
- ・会場内では、密を避けるため、他の方との間隔に御配慮ください。

3. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、中部専門記者会、静岡県政記者クラブ、静岡市政記者室、
港湾新聞社、港湾空港タイムス、日本海事新聞社、海事プレス、
マリタイムデーリーニュース

4. 問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局 清水港湾事務所
総務課 都田（みやこだ）、山本（やまもと）
Tel 054-352-4146

展示するパネルの一例

清水港湾事務所 100年間の主要プロジェクト

清水港 第二期修築工事①

(1921~1938)

1899年(明治32年)8月、清水港が開港場に指定され、茶の輸出をはじめとする貨物量の増加に対応するため、1909年(明治42年)から、静岡県が第一期修築工事を実施、江戸・日の出地区の船溜まりが整備されました。

その後も貨物は増え続け、清水港の施設拡充に対する地域からの強い要請を受けて、1920年(大正9年)に、国の清水港修築予算が認められました。翌1921年(大正10年)、内務省直轄による清水港第二期修築工事の実施が決定し、10月1日に、内務省横浜土木出張所清水港修築事務所を開設しました。

事務所開設直後から、測量や土地収用業務を開始し、1922年(大正11年)から、航路の浚渫や大型船が接岸可能な岸壁(現・日の出岸壁)の整備、埋立地の造成等を進めました。

岸壁の完成により、それまでの舳による沖荷役から、岸壁での直接荷役が可能となり、本船との荷役効率が格段に向上するなど、清水港の近代化の大きな一歩となりました。

第二期修築工事は1938年(昭和13年)に完了し、同年3月に清水港修築事務所を閉所しました。

■主要事業 / 甲岸壁(水深10.6m、延長212m)、乙岸壁(水深8.5m、延長183m)、丙岸壁(水深7.3m、延長225m) ※現在の日の出地区追加岸壁(水深10.6m、延長149m)、渡線橋(水深10m、延長50m) ※現在の富士見地区航路沿地浚渫(水深7.3~9m)、埋立地造成(清水変新田(日の出)、清間、不二見、三保見島)

■事業期間 / 1921年(大正10年)~1938年(昭和13年)

第二期修築工事着手前の平面図 (1920年)

第二期修築工事後の平面図 (1938年)

現在の清水港 (2021年3月) ※現在の日の出地区

修築工事中の清水港 (1924年)

現在の清水港(日の出地区) (2021年5月)

第二期修築工事 起工式(基石沈下) (1921年5月23日)

丙岸壁に第1船(新仁丸)が入港(初の接岸荷役) (1922年8月2日)

岸壁整備による荷役形態の変化

(※輸出入の積み込み)

岸壁整備前、舳による沖荷役

日の出岸壁での直接荷役

沖合に停泊している本船に小型船(舳)で貨物を選ぶ

大型の本船が岸壁に接岸し直接貨物を読み込む

写真提供：静岡県、オーストラリアン株式会社、フルニール博覧会

2021年(令和3年)10月作成

清水港湾事務所 100年間の主要プロジェクト

田子の浦港 中央地区 岸壁の改良(大型船対応・耐震化)

(2006~2018)

田子の浦港において、穀物等を輸送する船舶の大型化に対応するとともに、大規模地震発生時においても物流機能を維持することができるよう、2006年(平成18年)、中央地区の岸壁改良工事(水深12mへの増深、耐震化)に着手しました。

2011年(平成23年)2月に、岸壁部の全面供用を開始し、田子の浦港背後に立地する製紙業・化学工業等を支える物流拠点として、重要な役割を果たしています。

■主要施設 / 中央2号岸壁(水深12m、延長240m、耐震構造)航路沿地(水深12m)

■主な改良内容 / 中央2号岸壁：水深9m→水深12mへの増深、耐震化航路沿地：水深10m→水深12mへの増深

■事業期間 / 2006年(平成18年)~2018年(平成30年)

田子の浦港 中央地区 (2021年3月)

中央地区に着岸する貨物船 (2021年3月)

田子の浦港 中央地区 (2021年3月)

中央地区に着岸する貨物船 (2021年3月)

中央2号岸壁の利用状況

穀物の打設工事 (2007年4月)

岸壁床面の設置作業 (2008年11月)

穀物(トウモロコシ)の荷揚げ (2011年5月)

岸壁本体(ジャッキ式橋脚)の据付作業 (2009年8月)

改良工事後の中央2号岸壁 (2011年8月)

セメントの受揚げ (2012年5月)

2021年(令和3年)10月作成

清水港湾事務所 100年間の主要プロジェクト

御前崎港 西埠頭 多目的ターミナルの整備

(1994~2004)

1990年代に入り、世界経済のグローバル化、アジア諸国の経済成長が進む中、国際物流における海上コンテナ輸送は増加の一途をたどりました。

当時、静岡県のコンテナ輸出入拠点である清水港では、コンテナ取扱量が限界に近づきつつあり、増加するコンテナ需要に対応するために、新たに県中西部のコンテナ輸出入拠点として、御前崎港の整備が必要となりました。

これを受けて、1994年(平成6年)、御前崎港において、コンテナの取り扱いや大規模地震発生時の物流機能維持にも対応した、水深14mの多目的ターミナルを計画決定し、同年に工事を着手しました。

2004年(平成16年)1月に、岸壁部の供用を開始し、御前崎港背後に立地する自動車産業等を支える物流拠点として、重要な役割を果たしています。

■主要施設 / 西埠頭10号岸壁(水深14m、延長280m、耐震構造)、航路沿地(水深14m)

■構造形式 / 西埠頭10号岸壁：重力式岸壁

■事業期間 / 1994年(平成6年)~2004年(平成16年)

西埠頭10号岸壁

西埠頭10号岸壁(多目的ターミナル)使用開始時 (2004年1月)

現在の御前崎港西埠頭 (2021年3月)

工事中の御前崎港西埠頭 (1994年4月)

西埠頭10号岸壁完成時 (1998年1月)

西埠頭10号岸壁(多目的ターミナル)使用開始時 (2004年1月)

現在の御前崎港西埠頭 (2021年3月)

西埠頭多目的ターミナルの利用状況

岸壁本体(ケーソン)の据付作業 (2001年11月)

岸壁への防振材の取付作業 (2003年1月)

御前崎港の外航定期コンテナ航路第1船が入港 (2004年10月)

完成後の西埠頭10号岸壁 (2004年12月)

西埠頭多目的ターミナル供用開始式典 (2004年1月31日)

コンテナの積み下ろし (2021年3月)

写真提供：静岡県

2021年(令和3年)10月作成

清水港湾事務所 100年間の主要プロジェクト

下田港 防波堤の整備

(1980~)

伊豆半島の下田沖は、海上交通の要衝であり、気象・海象条件が厳しい難所としても知られています。

また、下田港周辺地域は、古くから津波により繰り返し被災しており、津波対策が重要な課題となっています。

このため、下田港では、荒天時にも船舶が安全に避難できる静穏な水域を確保するとともに、東海地震などによる津波から市街地を防護する目的で、1980年(昭和55年)に、運輸省(現・国土交通省)の直轄事業として、湾口部の防波堤整備に着手しました。

最大水深45mの日本有数の大水深での施工に加え、季節風による波浪の影響で施工時期が限られるなど、難易度の高い条件の中、工事を進めています。

■主要施設 / 防波堤(西)(延長500m) (2021年3月末時点 350m完成)

防波堤(東)(延長400m) (2021年3月末時点 255m完成)

■構造形式 / 防波堤(西)：消波ブロック内蔵双翼型堤、消波ブロック被覆堤防波堤(東)：直立消波スリットケーソン堤、消波ブロック被覆堤

■事業期間 / 1980年(昭和55年)~ (2030年代完成予定)

防波堤(西)

防波堤(東)

防波堤整備前の下田港 (1983年)

防波堤の整備状況 (2019年)

防波堤の効果

(港内の船舶が荒天による船舶の安全を支援)

荒天時における船舶の避難 (2016年3月)

下田港で初のクルーズ船「ル・パレール」が寄港 (2016年4月)

下田港防波堤着工式典 (1980年3月13日)

消波ブロック内蔵双翼型ケーソンの据付作業 (1999年)

80t型高比重消波ブロックの据付作業 (2002年10月)

防波堤開口部(航路側)の方格据付作業 (2014年7月)

2021年(令和3年)10月作成